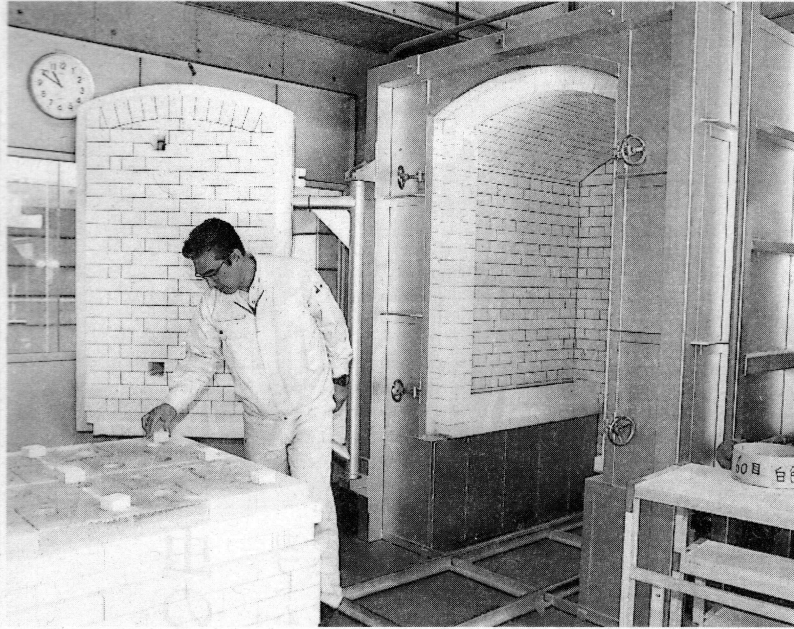


# 笠間焼が育てたガス窯技術

## 大築窯炉工業(茨城県笠間市)



茨城県立笠間陶芸大学校(笠間市)に設置したガス窯が「いばらきデザインセレクション2019」のデザインセレクション部門の「選定」作品に選ばれた。ガス窯専門30年の経験を生かした燃焼効率や操作性など、デザインと機能を両立させたことが評価された。



「選定」に選ばれたガス窯。左下の台車を水平移動し、窯の中に入れて焼く。茨城県笠間市笠間

## 経験30年 全国に800基超

大築窯炉工業の前身が創業したのは1985年。社長長の谷口浩司さん(57)によると、製陶所を営み、作家でもあった父の俊夫さんが、思うような作品を作るため、薪も使える炭化焼成付きガス窯を開発したことを機に、窯の製作を事業化した。

ガス窯は火力や酸素量を制御でき、効率的で生産性が高い。一方、薪窯は経験や勘を働かせても思い通りにならないこともあるが、想像もつかない作品を生み出すこともある。浩司さんも当初、ガス窯は量産品向け、芸術作品は薪窯と信じていた。だが、人間国宝の陶芸家・鈴木藏さんがガス

窯を使っていると知り、それ以来「ガス窯一筋」だ。窯の性能を磨くにあたり、笠間ならではの利点もあつた。伝統的な陶器の産地に比べ、伝統にしばられず、自由な作風が特長の笠間焼。様々な土を使い、色々な焼成のやり方を試す作家が集う。納品先が使う窯

のデータを集めて設計や製作工程に生かした。現在、陶芸専門のガス窯メーカーは全国に3社しかないといい、他社製品の調整や修理も請け負う。製作する窯のサイズは0.1〜3立方メートルで、1立方メートルのが最も多い。サイズや仕様で異なるが、価格は100万円〜700万円ほど。

### 陶芸はなくならない。そのためにも良い窯を



谷口浩司・社長訓

県内の高校を卒業後、経理専門学校を経て水戸市の建設会社に就職。力を試してみたくなり4年で退職し上京したが、1年で地元に戻った。

元々、後を継ぐ気はなく、陶芸や機械について一から教えるを乞う状態だったが、父は無言で迎えてくれた。作家でもあり、昔気質の父とぶつかりながら技術を身に着けた。「釉薬が溶ける変化も化学反応の一つ。数値からある程度は分析できる」。ガス窯ではガス圧や酸素量などを計測できるため、データの蓄積を

作家に合わせ、窯を「チューニング」する作業も行う。手がけた窯は、北海道から沖縄まで800基を超す。今や、3Dプリンターで器が作れる時代。しかし浩司さんは「AIや科学が発達しても、人が土から手で作る陶芸はなくならない」と言い切る。(ライター・神野泰司)

飲むなら茨城の地焼酎

茨城生まれの本格いも焼酎

漫遊記

全国新酒鑑評会 受賞歴

副将賞 明利酒類

茨城県水戸市元吉田町338

029-247-6111

キタカントウ、首都圏